

「ジャストミートベースボール！」

ー5・6年のベースボール型ボール運動実践ー

1. はじめに

昨年度の研究部と豊能三島ブロックのコラボ例会における池田先生の「かっとぼし野球」実践が、今回の実践のきっかけとなった。昨年度の池田ベースボール実践は、以前田中宏樹先生が提案した「かっとぼし野球」の追実践ともいえる実践であった。経験者である池田先生が子どもたちに「野球」のたのしさを味わわせたい、さらにそのためには「打つ」ことの楽しさにふれさせたいということでスタートした実践であった。コロナ禍で自らが考えたバージョンまで行かず終了したが、帰宅してからみんなが集まり「かっとぼし野球」を楽しんだことから、子どもたちにとって魅力のある実践であった。しかし、報告・検討から見えてきたことは、「ベースボール型ボール運動」で何を教えるのかに大きく関わる「打つ」ことへの感覚づくりやスモールステップが確立されていないという点であった。そこで、今回は、少しでもそこに迫れるような実践を目指して取り組むことにした。

2. 子どもたちと教材

実践の対象は、全校86名という小規模校である小学校5年生（男子4名、女子10名計14名）のクラスと、6年生（男子7名、女子10名、けい17名）である。1学期は、体力調査もあり、週2時間で、5年生はマット運動（側転への道）、6年生は、跳び箱運動（台上前転）、5・6年生とも水泳（2時間4コマ民間のプールにて）で終了した。

<クラスの実態>

◎5年生

男子は、反応が良く、素早く行動し、よく働く。女子は、おとなしく、反応が見えにくい。動き始めのとっかかりが遅い。また、男子は、自分を主張したい。認めてもらいたいという気持ちが強い。女子は、主張したいことがあるが、表には、あまり出さない。男女の仲は非常によく、男子は、1人で女子の中に入っても特に文句は言わないし、女子も男子とのペアをいやがるような児童はいない。転入生1名、不登校気味の児童1名（女子）クラス全体にだれにでもやさしい。しかし、つながりが薄いからという見方もできる。反面、一定の児童を固定的に見ているのではないか？と思われる点も見え隠れする。インドア派が多く、外に遊びに行かない。行っても「ブランコ」や遊具で遊んでいる。転入生は、なかなかなじめていない。高学年としての意気込みは、作文などに見受けられる。しかし、まず自分の事をしないと…、と思えるような状況をしばしば見ることができる。

◎6年生

昨年度、5年生として担任をしていたクラス。1年間で陸上は「ハードル走」「リレー」、マット運動「シンクロマット」、表現運動「南中ソーラン」と、曲がりなりにもグループ学習で4実践を行った。ただ「ハードル走」はノート作りもふくめて実践は中途半端。リレーは、6年生との合同実践であった。クラス全体におだやか。周りの仲間によく気をつかう雰囲気。誰にでも声

をかける。学校内でも「優等生な6年」と見られている。最高学年としての意気込みも強く、頼りにされている。しかし、女子間は、高学年独特の友だち関係の問題がある。現在、3名が不登校（完全不登校2名）。

3. 実践のねらい

- (1) バッティングに関する運動感覚やスモールステップにつながるポイントを体験に基づいて解明する。
- (2) ベースボールの楽しさである「打つ」を経験することをきっかけに、用具やルール、歴史も含めた上で、攻防のせめぎ合いという「学ぶ中身」を整理し、学ぶ順序を見つけていく。
- (3) ベースボールの面白さの一つである「作戦」の在り方に触れ、ルール作りやそれに伴う作戦づくりを行う。

4. 学習の流れ（案）

(1) 第1次…リアル野球盤で学ぶ…6～7h

①打ち方を学ぶ。(バッティングへの習熟)

…3h5年(11/16・22・29)、6年(17・22・29)

②リアル野球盤①打つのみ(図1・2)

…5年3h(11/25、28、12/1)6年2h(11/25、12/1)

- ・チーム全員が1回ずつ打ったら交代(チェンジ)
- ・内野のポジションに網(ハードルに網)
- ・内野をこえればヒット～ホームラン(アウトゾーンあり)
- ・守備なし(敵チームは、コーンの後ろでボール拾い)
- ・ランナーは、走らない。(コマとしてベース上に立つ)

③リアル野球盤②打つ+捕る…3h(6年のみ1/3h)

- ・チーム全員が1回ずつ打ったら交代(チェンジ)
- ・内野のポジションに網(ハードルに網)
- ・内野をこえればヒット～ホームラン(アウトゾーンあり)
- ・外野に守備(交代制の3人)ゴロをとったらヒット、
- ・フライをとったらアウト、落とせばヒット

(2) 第2次…リアル野球盤→「打つ・走る・投げる」の野球型へ(図3)…5h

①内野は、野球盤と同じ。外野は交代で守備。

- ・外野は、ごろボールをとったら、近くの網をはっているハードルに向かって投げる
- ・ハードルの網につけた鈴がなるのが早いかわりにベースに走りこむのが早いかわりを審判が判断。
- ・ボールをとった守備者は、一番近いハードルに投げ入れてよい。
- ・ホームの網は、バッティングケージに鈴をつける。

②内野も守備を行う。(全員で守る)

- ・1塁、2塁、3塁、本塁にそれぞれ網を置き、とったボールを底に投げ入れる。
- ・バッターは、状況に応じた方向へチームと相談して打つ(作戦)

5. 実践の経過

No. 2

(1) 第1次…リアル野球盤で学ぶ…6～7h

①打ち方を学ぶ。(バッティングへの習熟)…3h5年(11/16・22・29)、6年(17・22・29)

《1時間目》11/16(金) 5年 11/17 6年

・ごろキャッチボール…2人一組でボールを転がし合う。体の正面で(両手で)ボールをとる(15往復30回)

・ティーバッティング(習熟)…3種類の高さ(75cm1本、80cm、83cm各2本)やはり、少しではあるが、経験している6年生の方が対応できているかのティーを用意し、それぞれに合う高さのティーで打つ。特にグループはなし。1時間目ということもあり、ほとんど経験のない児童の多い5年生は、恐る恐る打っている感があった。6年生は、去年の経験があるせいか(2時間ではあるが…)、ある程度ボールに当てることができていた。ただ、5年生もミート(ジャストミートといえるかどうかは疑問だが)できた時の気持ちよさ(スッキリ感)は感じていたようだ。中には、打つより「ボールをとる方が楽しい。」という児童もいた。ただ、「打ち方のコツ」については「むずかしい」と考えてる。この日の記述で、野球経験者であるSmiの「1・2い～の3」(4拍子)で打っている、というところにひっかかった。池田実践では、「ハイ・ドー・ゾ!」という3秒死に対して、Smiは、明らかに4拍子。ここで、トスバッティングの際は、「ハイ・ドー・ゾ!」で、「パン!」と打つので、打ったインパクトも入れると4拍子になる。これは、あんまり関係ないか…。

Smiの記述

「みんなのを見てみて」

まあね。みんな最後までボールを見ること、とおくまで飛ばそうと思わない。(飛ばそうと思うと、力むから、かたの力をぬく。)

次、タイミング。たとえば…、「1・2の～3!」で、わたくしは打ってます。チャーシューメンでもいい。自分なりに工夫することもいいよ。

つぎ、おもいきりふる。

思い切りふることが大事。当たらなくてもいいから、おもいきりふる!(ボールから目をはなさずに、かたの力をぬいて)

楽しくなってきたねえ。あえ、うえ、うおえ。

《2時間目》11/22

5年…前回ノートにあったSmiの「1・2い～の3」(4拍子)と「チャーシューメン!」(3拍子)のどちらが打ちやすいかを確認すること。ボールをよく見ることを中心にバッティングを行った。「思い切りふる」にも着目はさせたが、かたの力をぬくとの矛盾を感じるのではないかと、思っていた。結論から言うと、子どもたちの反応は様々で、リズムは大切ではあるが、3拍子、4拍子は、どちらでないといけない、ということはこの段階(ティーを打つ段階)ではないのかも思えた。また、この段階で「フルスイング」を教えることが重要なのではないとも思えた。「ボールをよく見る」については、「ボールに顔をかいたらいい。」という意見も出た。

6年…ブロックでの検討会で、安武先生の方から出されたバッティングに関する資料で「足をあげて踏み込むことの重要性があげられていたことから、子どもたちに「タイミングをと

る」意味でも足をあげることを試してみてもは?と投げかけた。6年生にはけっこう評判がよかったが、「ボールをよく見て打つ」の点から「ボールの下側を打つ」や「バットでボールをすくい上げるように打つといい。」と「ボールの中心にあたるようにすばやく打つ」という相反する(?)意見が出てきた。

この時点で、すくい上げるように打つのは、どうもアップスイングになるということと、ヘッドアップしてボールを最後まで見ないことにつながる気がして、どうもお勧めできない気がしていた。

②リアル野球盤①打つのみ(図①)…5年3h(11/25、28、12/1)6年2h(11/25、12/1)

・チーム全員が1回ずつ打ったら交代(チェンジ)

・内野のポジションに網(ハードルに網)

・内野をこえればヒット～ホームラン(アウトゾーンあり)

・守備なし(敵チームは、コーンの後ろでボール拾い)

・ランナーは、走らない。(コマとしてベース上に立つ)

・チーム全員が打ち終わった時点の得点で競う(1人1回)

《3時間目(5年は3・4時間目)》11/25、(5年は11/28も)

5年…いつものように「ごろボールキャッチ」とティーバッティング(1人5球)を経て、初めての野球盤を行った。「足をあげて打つ」も試したが、反対の足をあげている子や、帰ってバットの軌道が不安定になっている子も見られ、この段階での「足上げ」は、適切ではないのかなと思えた。初めてで段取りも悪く、1回の攻防で時間切れになった。5年生のホームランゾーンまでが遠くて(フィールド図①5年)、ボールがそこまで飛んでいかないので、6年は、ゾーンを30mの扇形にかえた。(フィールド図①6年)5年は、初めての経験だったので、28日にも同じことを行った。(6年より1回多い)25日は、次の時間が専科であったことと金曜日であったため、記述は、28日にまとめて行った。子どもたちは、25日のフィールドに注文を付けなかったため、ホームランエリアを少し下げただけでほぼ同じ条件でゲームをした。

6年…6年は、「足をあげて、ボールをよく見て打つ」を意識している児童が多い。25日は、ノートがとれず、29日の体育館の分も含めての記述になったので、分析が行いにくい。ただ、5年の時の経験が少しあるせいか、楽しめたようであった。30mの扇形にゾーンをしたこととホームランゾーンが広がったため、ゴロでのホームランが頻発した。スコアは、7対7(7人ずつ打つたので、最高得点)だった。

《4時間目》(5年は5時間目) 11/29 体育館にてバッティング練習

◎どちらの学年も、バッティングのコツをある程度整理するために体育館でティーバッティングを行った。(チームに分かれて) また、はじめる前に、アプローチこそ違うが、6年生の「バットにボールを当てることを意識して、フルスイングせずにレベルスイングを行っている映像」

を見せた。(ノート資料②)

5年…ブロックで報告したことを安武先生が整理してくれた資料をもとに、子どもたちの言葉をひろいながら「気持ちよく打ちたい! 遠くに飛ばしたい! そのために…②」というノートを作り、よれを読んだ後に練習を行った。5年生の感想文からは、けっこう「レベルスイング」が響いたように感じた。しかし、体育館のテラスにとどくような当たりは、男子の数名だけだった。ただ、ライナー性の当たりは、何人かの女子に時折見られた。

6年…22日と25日の記述(書いていないものもある)の技術の部分にふれながら、コツを一定整理した。そこで、思い切り打つのではなく「こんな打ち方もあるよ。」ということで、バットを立てずにかまえを小さくしたレベルスイングのVTRを見せた。思い切り振らなくてもとんでいる映像を見て、一定おどろいていた。その後に、ティーバッティングを行ったが、レベルスイングで打球を飛ばすものもいたが、まずボールにバットをうまくヒットさせないと飛ばないので、けっこう失敗も多い。また、ある程度運動技能が高かったり、経験のなる児童は、「すくい上げるように打つ」打ち方で、体育館のテラスにボールを放り込んでいた。この感覚は「すくい上げるように打つ」である。12人中5人(女子1名含む)が何度もテラスに打ち込んでいた。

③リアル野球盤②打つ+捕る…(6年のみ1/3h、5年は守備なし)

- ・チーム全員が1回ずつ打ったら交代(チェンジ)
- ・内野のポジションに網(ハードルに網)
- ・内野をこえればヒット～ホームラン(アウトゾーンあり)
- ・外野に守備(交代制の3人)ゴロをとったらヒット、
- ・フライをとったらアウト、落とせばヒット

《5年…6時間目、6年…5時間目 12/1

5年生は、守備なしで、前回と同じフィールドで(ホームランゾーンも同じ広さ)で、行った。

6年生は、前回のノートから、ホームランゾーンをせばめることと、守備を入れる野球盤をやってみた。まだ整理できていないので、ノートを参考にされたい。(フィールド図②)

※ここまでやってきて、中間の総括も何もできていない。この例会で色々なご意見をお聞かせください。